

2019年度

学習計画 (シラバス)

第3学年事務情報科



科目一覽（単位数）

- 現代文 A（3 単位）
- 現代社会（2 単位）
- 数学 A（2 単位）
- 地学基礎（2 単位）
- 体育（2 単位）
- 英語表現 I（2 単位）
- 家庭総合（2 単位）
- 課題研究（2 単位）
- 総合実践（2 単位）
- ビジネス情報管理（2 単位）
- 広告と販売促進（選択）（3 単位）
- 原価計算（選択）（3 単位）

平成31年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	現代文A	単位数	3 単位	学年・学科	3 年 事務情報科
教科書	第一学習社『新編現代文A』	副教材	第一学習社『パーフェクト常用漢字』 大修館書店『ビジュアルカラー国語便覧』		
教科目標	近代以降のさまざまな文章を読む能力を高め、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自己を客観視することにより人生を豊かにする態度を育てる。				
授業内容 進め方	「小説」「評論」を中心に読み、考えを深め、書く・話すことで知識・教養の定着をはかる。 具体的には、①漢字・語句などの基本的な国語力の定着を目指す学習 ②本文の基本的な読解 ③読み取り考えたことを元にした表現学習 という流れが中心となる。				
授業の留意点	基礎基本の定着に関わる反復学習は家庭学習などを適宜行うこと。黒板に書かれたことを写して暗記するのではなく、気づいたことをメモし、自ら考え、気になることやわからないことは自分で調べるという習慣を定着させ、能動的に授業に参加すること。				
学習方法 (アドバイス)	日常生活においても、授業で学んだことを実践するようにしましょう。各教科の提出物や学級日誌など、文章を書く場面では常に正しい文字、正しい書き言葉を意識しましょう。日頃から書籍や新聞などさまざまな文章を読み、活字の情報を吸収する力をつけていきましょう。				
課題・補習	必要に応じて適宜行います。				
試験について	定期試験の他、漢字小テストや国語常識テストなどを適宜行います。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	・授業への取り組み ・課題や提出物の取り組み状況			
	②話す・聞く能力	・授業への取り組み ・話し合い学習や発表の取り組み状況			
	③書く能力	・課題や提出物の出来栄 ・定期試験			
	④読む能力	・授業中の質疑応答への対応など取り組み状況 ・定期試験			
	⑤知識・理解	・授業中の質疑応答への対応など取り組み状況 ・漢字小テストや国語常識テスト ・定期試験			
備考					

平成31年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	現代社会	単位数	2 単位	学年・学科	3 年 事務情報科
教科書	「高等学校新現代社会」(帝国書院)	副教材		「ライブ！現代社会2019」(帝国書院) 「高等学校新現代社会ノート」(帝国書院)	
教科目標	多様な角度から、現在の私たちが生きている現代社会を捉えるとともに、現代社会の諸課題について、当事者意識、参加意識を高める。また、学習で学んだ現代社会に関する多面的な見方や考え方を、主体的に応用し、その解決策を現実的に考えることで、人間としての在り方や生き方を追求する力を養う。				
授業内容 進め方	課題追求の初歩を学びます。自ら、現代社会の諸課題について課題設定し、自分たちの言葉で問題を表現し、課題に関連するデータ収集課題解決や自らと課題との関連を知り、それを積極的に発表することに取り組んで下さい。 地域社会、市民社会、政治・経済社会、国際社会の諸問題を公正に判断し、解決策や代替策を考えることの出来る公民の資質を身に付けていきます。そのため、授業では、新聞や、資料、年表やグラフを多く活用します。				
授業の留意点	現在の私たちが生きている社会に関心を持って下さい。特に、自らの身の周りで起きている出来事が、社会全体の中でどのような問題と関連しているのか、ということ意識し、新聞やニュースなどから多くの情報を得るように心がけて下さい。 授業においては、クラス全体で話を聞く姿勢を整え、適宜ノートを取り、積極的に発言するよう心がけるようにしましょう。				
学習方法 (アドバイス)	教科書、資料集とノートを基本として、単語を覚えることはもちろんですが、その事象がなぜ発生したのか、内容をしっかり理解し、説明できる力が必要です。そのために授業をしっかりと聞くこと、わからないことは質問する姿勢を身につけてみましょう。				
課題・補習	必要に応じて実施します。				
試験について	年間4回の考査を実施します。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	現代社会の課題について、関心を強めているか。現代社会に生きる一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進に向けて、主体的に参加、協力しようとしているか。 ※学習活動への参加の仕方や態度、プリント等への取り組み、ノート			
	②思考・判断・表現	現代社会に関わる事項から課題を見出すことができるか。また見出した課題を広い視野に立って、多面的、多角的に考察し社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ、公正に判断しているか。 ※定期試験、小テスト、学習活動への参加の仕方や態度、プリント等への取り組み			
	③技能	現代社会に関する諸資料を、様々なマスメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択し、活用できるか。学習で追求考察した過程や結果を、様々な方法で適切に表現できるか。 ※定期試験、プリント等への取り組み			
	④知識・理解	現代社会に関する基本的な事項や理論などについて理解し、その知識を身につけているか。 ※定期試験			
備考					

平成31年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	数学A	単位数	2 単位	学年・学科	3 年 事務情報科
教科書	「改訂版 最新 数学A」(数研出版)	副教材		「3ROUND数学A」(数研出版)	
教科目標	場合の数と確率、整数の性質または図形の性質について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。				
授業内容 進め方	教科書の内容を基本とし、基礎の定着をはかる。その定着具合から、副教材を用いた問題演習を適宜行い、基礎固め・応用力養成を目標とする。 授業では教科書の内容が中心となるので、そこでまずは計算する力を身につけてもらいたい。計算問題を数多く解いて、間違いなく計算できるようにした上で「定義」「定理(公式)」を理解し、活用して演習問題に取り組むことが大切である。				
授業の留意点	授業に臨むとき予習していることが望ましいが、それよりも必ず復習することを心がけて欲しい。授業で行った内容を毎日必ず復習するよう心がけて欲しい。 ノートは2冊用意し、授業用(教科書用)と副教材用に区別すること。				
学習方法 (アドバイス)	数学を得意とするためには、日々コツコツと問題に取り組み、力を付けていくことが大切である。反対に不得意になる(わからなくなる)原因は疑問を積み重ねて悪循環に陥ることが考えられる。授業で分からなかったこと、疑問に思ったことはそのままにすることなく、その都度解消してほしい。				
課題・補習	教科書の補充問題、章末問題、副教材の問題で授業の中で消化しきれなかった問題を課題とする。場合によってはプリント等で課題(応用問題)を補充することもありえる。副教材のノートは必要に応じて回収し、その取り組みを点検する。				
試験について	試験は4回の定期試験以外に必要なに応じて単元テストを実施する場合がある。				
評価の 観点・方法	評価の観点		評価方法		
	①関心・意欲・態度		各章における考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとしているか。 ・学習活動への取り組み ・課題や提出物の状況(ノート、プリント、レポート等)		
	②数学的な見方や考え方		事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けているか。 ・試験 ・提出レポートの内容 ・提出ノートの内容		
	③数学的な技能		事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けているか。 ・試験 ・小テスト		
	④知識・理解		各章の考えにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けているか。 ・試験 ・小テスト		
備考					

平成31年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	地学基礎	単位数	2 単位	学年・学科	3 年 事務情報科
教科書	地学基礎 新訂版	副教材	ビジュアルプラス地学基礎ノート		
教科目標	近年の災害によって注目されている地震や気象を中心に、それらの現象を理解するための基本的な概念や原理・法則を学ぶ。また学習活動や課題学習に取り組み、得た知識を実生活に応用する能力を身につけ、自然に対する探究心を育むことを目標とする。				
授業内容 進め方	教科書に沿って授業を行い、学んでいる分野の理解を深めるため、現在われわれが直面している課題を把握するために、必要に応じて視聴覚教材を用いて授業を行う。また教科書の練習問題、副教材の問題演習を解き、自然現象の科学的な見方や考え方、計算能力を身につけていく。				
授業の留意点	授業中に学んだ語句・考え方は、復習を中心にして完全に理解しておくこと。その上で問題演習を進んで行き、自然現象を科学的に考える力、計算力の向上に努めること。また一般的にも注目されている内容であるので、地震や天気といった自然現象に関する話題に積極的に触れることを心がけること(授業でも話題には触れる)。				
学習方法 (アドバイス)	授業内容に対する自分なりの解釈を常に持ちながら授業に臨んでほしい。考えを持ち探求していくことが、自然現象を科学的に理解する力を身につける助けになる。また一度つまずくとその後の内容の理解が難しくなるので、分からない箇所が出てきた場合にはその都度質問し、復習して理解するという習慣を身につけることも大切である。				
課題・補習	適宜教科書の練習問題や副教材の問題を課題として指示する。発展的な内容についてはプリントでの課題学習を行う。また、成績不振の者に対しては補習を行う場合もある。				
試験について	定期試験を4回行う。調べ学習の発表資料作り等も試験に組み込まれる。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	自然の事物・現象に関心をもち、意欲的に探究する姿勢がある。 ・学習活動への参加状況 ・課題・提出物の取り組み、提出状況			
	②思考・判断・表現	日常生活において事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現する。 ・定期試験の解答の内容 ・レポートの内容・発言の内容			
	③技能	観察・実験において過程や結果を的確に記録、整理する。 ・実験、観察の授業中の実験器具操作や方法 ・レポート、定期試験の解答の内容 ・発言の内容			
	④知識・理解	基本的な概念や原理解法則を理解し、知識を身につけている。 ・定期試験の解答の内容 ・レポートの内容			
備考					

平成31年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	体育	単位数	2 単位	学年・学科	3 年 事務情報科
教科書	「ステップアップ高校スポーツ」 「現代高等保健体育 改訂版」 大修館書店	副教材		指定ジャージ、指定靴 指定Tシャツ	
教科目標	運動を意欲的に実践し、調和の取れた心身の発達を目指す。また、運動を通して公正・協力・責任などの態度を学び、生涯を通じて計画に基づいて継続的に運動ができる資質や能力を身につける。				
授業内容 進め方	各種運動を実施しながら学んでいく。				
授業の留意点	① 指定ジャージの管理 ② 時間を守る ③ 安全性への配慮 ④ 指示を聞く姿勢と態度 ⑤ 用具の準備・片付けと協力 ⑥ 他の生徒との協調 ⑦ 体調が悪くなったり、怪我をした場合はすぐに教科担任に申し出ること				
学習方法 (アドバイス)	日頃から心身の健康や体力に関心を持たせ、各種目の技能向上を目指す。また、生涯にわたり体育的活動に親しむことが出来るように、興味を持って取り組むことや、他者とのコミュニケーションを取りながら協力し合って授業に望むことが出来るようにする。さらに、事故や怪我等、安全面への配慮も確認する。				
課題・補習	状況に応じて実施。				
試験について	種目毎、授業の進度に応じて適宜実施。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	服装・身だしなみ・協調性等			
	②思考・判断・表現	毎時間の取り組みを観察する			
	③技能	種目毎の実技試験による評価			
	④知識・理解	授業内での観察や筆記テスト等			
備考					

平成31年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	英語表現 I	単位数	2 単位	学年・学科	3 年 事務情報科
教科書	NEW ONE WORLD Expressions I	副教材	NEW ONE WORLD Expressions I Workbook システム英単語 Basic		
教科目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。CAN-DO-LISTに基づく具体的な言語活動は以下の通り。 (1) 日常生活での出来事について、用件を伝えたりすることができる。 (2) 日常生活の話題についてある程度まとまりのある文章を書くことができる。 (3) 日常生活での情報・説明を聞き取ったり、まとまりのある内容を理解することができる。 (4) まとまりのある説明文を理解したり、実用的な文章から必要な情報を得ることができる。				
授業内容 進め方	・教科書、プリントを使いながら情報や考えを理解する ・読み手や目的、場面に応じて文章を簡潔に書く ・聞いたり読んだりしたことや自分自身の経験に基づき、情報や考えをまとめ、発表する 以上の項目をとおして4技能を統合的に育成する。				
授業の留意点	・言語活動に積極的に参加して学習すること。 ・音声的な特徴(アクセント・イントネーション)や日本語との違いに注意しながら発音すること。 ・まとまりのある文章を音読・暗唱することとおして英語の文章の流れに慣れること。 ・自分の意見を持つこと、自分自身の経験に基づいて文章を書くこと。 ・違いを認め合う姿勢で他者を尊重すること。				
学習方法 (アドバイス)	・授業中の言語活動に積極的に参加すること。 ・自分の意見を持つこと。 ・反復練習を怠らないこと。 ・学習ノートや教科書・プリントの復習に努めること。 ・音読練習をすること。				
課題・補習	家庭学習用単語練習、ワークブック、(既習事項確認用)を課題として適宜提出する。 長期休業課題、週末課題を課す。				
試験について	定期試験を年4回実施する。 ※定期試験とは別にパフォーマンステスト(実技テスト)を実施する。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	① コミュニケーション への関心・意欲・態度	・コミュニケーション活動に関心をもち、積極的に言語活動に取り組んでいるか。 ・自己表現活動や他者との意見交換に積極的に取り組んでいるか。 ・自己の技能向上のために取り組んでいるか。 (各活動への参加の様子の観察、ワークシート、授業の感想シート、課題提出状況)			
	② 外国語表現の能力	日常的な話題やまとまりのある文章の内容をもとに、得られた情報の概要や自分の考えなど伝えたいことを英語で話したり、書いたりして表現できているか。 (定期試験、ワークシート、スピーキングテスト、プレゼンテーション)			
	③ 外国語理解の能力	日常的な話題やまとまりのある文章の内容をもとに、英語を読んだり聞いたりして、情報や意見など相手が伝いたいことを理解しているか。 (定期試験、ワークシート、リスニングテスト)			
	④ 言語や文化についての知識・理解	日常的な話題やまとまりのある文章の英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているか。 (定期試験、小テスト、ワークシート、ワークブック)			
備考					

平成31年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	家庭総合	単位数	2 単位	学年・学科	3 年 事務情報科
教科書	東京書籍 家庭総合 自立・共生・創造	副教材		実教出版 生活Navi資料＋成分表2018	
教科目標	消費生活、食生活、住生活など家庭生活に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得し、その充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。				
授業内容 進め方	・ワークシートを利用し、調査・研究・観察や実習を多く取り入れた学習をします。 ・自分自身の現在の生活を深く見つめ、将来を考えて自立を目指すことが出来るように学習を進めます。 ・グループワークや個別学習など、様々な学習形態を取り入れ、生活や学習の中から見つけた課題の解決方法を考え、実践していきます。				
授業の留意点	・学習したことを、家庭科の各分野や他教科での学習と関連づけて考えるようにしましょう。 ・自らの経験や体験、他の人の意見を大切にし、自分の考えを持つよう心がけましょう。 ・ワークシートには、大切だと思うことや自らの考えを書き込むなどして工夫しましょう。 ・プリント、感想、レポート、作品等の提出物は期日を守って必ず提出しましょう。				
学習方法 (アドバイス)	家庭総合を学ぶ上で最も大切なことは、単なる知識や技術の習得のみではなく、学習した内容を日常生活にいかすことです。誰もが家庭生活に一生関わっていきます。学校での学習をぜひ家庭生活でも実践して、将来にいかせるようにしてください。				
課題・補習					
試験について	定期試験は、前期中間、前期期末、後期中間、学年末(計4回)の実施予定です。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	消費生活、食生活、住生活などに対して意欲的に学習し、生活を向上しようとする実践的な態度が身についたか。 ※授業・実習の参加の仕方・態度、ワークシートへの取り組みなど			
	②思考・判断・表現	消費生活、食生活、住生活などについて見直し課題を見つけ、課題解決のための工夫する力が身についたか。また、自分の意見や感想などを文章で表現する力や発表する力が身についたか。 ※定期試験、ワークシートの考察など			
	③技能	消費生活、食生活、住生活などについて、将来の自立のために必要な基礎的・基本的な技術が身についたか。 ※実習時の技術、ワークシートの考察、作品・レポートなどの提出物			
	④知識・理解	消費生活、食生活、住生活などについて、基礎的・基本的な知識が身についたか。 ※定期試験、ワークシートの考察など			
備考					

平成31年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	課題研究	単位数	2 単位	学年・学科	3 年 事務情報科
教科書		副教材			
教科目標	1、2年次に学んだ基礎的・基本的な学習の上に立って、商業に関する課題を生徒が自ら設定し、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく課題を解決する学習を通して専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、自ら課題を発見し解決する能力や自発的、創造的な学習に取り組むなど、主体的な学習態度を身につける。				
授業内容 進め方	3人から5人の班を編制し、班ごとに調査研究を進めていく。その進行は別紙のスケジュール通りとする。最終的に研究成果を発表するためのパワーポイント等を利用した発表会への準備と冊子用の最終レポートを提出する。12月に1、2年生も参加した課題研究発表会を開催し授業の中で行った研究・制作の成果を発表する。				
授業の留意点	課題研究は基本的に「自らが設定したテーマについて自らが研究・調査・製作方法を見だし、自らの力で問題点や課題を解決する」授業です。したがってテーマを決める際、一年間を通して調査研究、作品制作を行うことができる題材であるか、調査対象が多岐にわたる等の理由で最終的な結論に達することができないということがないように年間を見通した詳細な計画を立てこれに従い計画通りに調査研究、作品制作を進めてください。				
学習方法 (アドバイス)	調査・研究においては授業時間内だけではなく、放課後や休日、長期休業中等も利用して広範囲に渡る充実した研究を行えるように工夫しましょう。情報収集はインターネットだけを頼らず、書籍・アンケート調査・聞き取り調査等様々な手段を活用しましょう。				
課題・補習	自学自習が基本となるため、各学習活動において、課題が提出されていなかったり、課題の条件を満たしていない場合、放課後を用いて補習を行う場合があります。				
試験について	定期試験は行わない。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	身だしなみ 取り組み状況 年間計画 日誌・課題の提出			
	②思考・判断・表現	年間計画表、月別計画の作成 取り組み状況 完成レポート 課題研究発表会			
	③技能	課題研究ファイル 中間報告書 完成レポート 課題研究発表会			
	④知識・理解	研究日誌 自己評価表 提出課題			
備考					

平成31年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	総合実践	単位数	2 単位	学年・学科	3 年 事務情報科
教科書		副教材			
教科目標	商業の各分野で学んだ知識と技術を実践的、体験的な活動を通して、マーケティング能力、会計活用能力、情報活用能力という総合的な知識と技術を習得するとともに、ビジネスの諸活動を主体的、合理的に行うことのできる能力と態度を身につける。				
授業内容 進め方	挨拶をはじめとしたビジネスマナー、ビジネス文書作成、電子商取引をテーマとした模擬取引を扱います。2～3人を1つの会社とした、模擬会社を設立し、社長・営業・経理の役職を各社員が担当して取引を進めます。				
授業の留意点	① 遅刻をしない。 ② 身だしなみを整える。 ③ 各種文書、帳簿などの記入に際しては、正確・迅速・丁寧に処理する。 ④ 実践室や自分の机の上は常に整理整頓し、能率的に仕事をできるようにする。 ⑤ 忘れ物をしない。 ⑥ 正しい言葉遣い、基本的なマナーを守る。				
学習方法 (アドバイス)	欠席をすると、検印簿の提出が遅れてしまうので、欠席をしないこと。 すぐに面接試験を受けることのできる身だしなみで出社すること。				
課題・補習	必要に応じて、課題を出すことがあります。				
試験について	定期試験は実施しませんが、小テストの成績、プリントなどの提出物の状況、学習活動への意欲・態度や学習時のマナー、模擬個人事業の営業成績、個々人で行う作業については、責任をもって業務(課題)を遂行しているかなどを評価の対象とします。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	・学習活動への参加の仕方や態度、マナー …◎ ・授業中に使用するプリント …○ ・帳簿・報告書 … ◎			
	②思考・判断・表現	・授業中に使用するプリント …○ ・営業成績 …○ ・課題の提出状況 …◎			
	③技能	・小テスト …◎ ・実践演習 …○ ・始業時の接客用語発声 …○			
	④知識・理解	・小テスト …○ ・課題の提出状況 …○			
備考					

平成31年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	ビジネス情報管理	単位数	2 単位	学年・学科	3 年 事務情報科
教科書	『ビジネス情報管理』(実教出版)	副教材			
教科目標	情報通信ネットワークやビジネス情報システムに関する知識と技術を習得し、ビジネスの諸活動において情報を管理し、共有することの意義や必要性について理解するとともに、業務の合理化を積極的に推進する能力と態度を身に付ける。				
授業内容 進め方	内容については、授業計画を参照。授業の進め方は、実践的・体験的学習を通して知識と技術を習得する。自作のプリントを使用し、問題演習を行う。				
授業の留意点	・ビジネスの諸活動において、業務の合理化を積極的に推進できるように、具体的な事例からイメージするように心がけて下さい。 多種多様な練習問題に取り組み、問題を解決する力を身につけて下さい。				
学習方法 (アドバイス)	わからないところはそのままにせず、授業中に質問などをして解決しましょう。説明時はしっかりと話を聞き、配布プリントもなくさないようきちんと整理しておきましょう。				
課題・補習	課題は、授業時間に消化しきれなかった問題が課題となる。補習は、理解するのに時間がかかる生徒を対象に行う予定。				
試験について	定期試験は実施しない。しかし、課題の提出、小テスト、実技テスト、授業への取り組みを評価とする。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	・学習活動への参加の仕方や態度 ・提出物の提出状況			
	②思考・判断・表現	・学習活動への参加の仕方や態度 ・提出物(課題)の内容			
	③技能	・提出物(課題)の内容 ・授業の中での実技テスト			
	④知識・理解	・提出物(課題)の内容 ・授業の中での実技テスト ・授業の中での筆記テスト			
備考					

平成31年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	広告と販売促進	単位数	3 単位	学年・学科	3 年 事務情報科 事3
教科書	広告と販売促進(実教出版)	副教材			
教科目標	企業と消費者間のコミュニケーション活動を主体的・創造的に行う能力と態度を身に付ける。				
授業内容 進め方	広告の制作、店舗設計、商品陳列、接客などの知識と技術を体験的に行う。				
授業の留意点	社会人として最低限必要な挨拶・身だしなみに留意すること。 正しい言葉遣い、基本的なマナーを守る。 身の回りを常に整理整頓し、能率的に仕事をできるようにする。				
学習方法 (アドバイス)	具体的な事例を用いて授業を進めていきます。地域の企業や校内の他の科目からの依頼を受け、様々な活動をおこなっていく予定ですので興味を持って授業に取り組んで下さい。				
課題・補習	授業内で課題を提示する。放課後に課題に取り組む場合がある。				
試験について	実施しない。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	・ビジネスを学ぶものとしてふさわしい身だしなみか。 ・学習活動への参加態度が良好か。 ・授業中に使用するプリント・資料を整理して管理しているか。			
	②思考・判断・表現	・授業中の取り組み状況は良好か。 ・課題の提出状況は良好か。 ・課題の内容は工夫されているか。			
	③技能	・実践演習に積極的に取り組んでいるか。 ・課題の作成や活動を丁寧に行っているか。 ・提出課題の完成度は高いか。			
	④知識・理解	・知識を習得し、理解を深めているか。 (小テストや確認テスト、授業内の観察によって評価します)			
備考					

平成31年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	原価計算	単位数	3 単位	学年・学科	3 年 事務情報科 事3
教科書	原価計算(東京法令出版)	副教材			
教科目標	製造業における原価計算及び簿記に関する基本的な知識と技術を習得し、原価について理解するとともに、原価計算から得られる情報を活用する能力を身に付ける。				
授業内容 進め方	教科書の流れに沿って、教科書の内容をまとめたプリントを中心に学習を行う。例題、練習問題を通じて理解し、更に復習問題を継続的に行うことにより定着をはかる。定着の確認をするため、定期的に確認テストなどを実施する。また、検定試験の受験に対応できるように関連させながら学習する。 全商簿記検定1級(原価計算)合格を目標に取り組む。				
授業の留意点	1年次に学習した商業簿記を基本とするが、原価計算は新たに学ぶ科目である。つまり、全員が同じスタートラインに立つ科目であり、ここからの取り組み次第である。そのため、一時間一時間を大切にし、わからないところはそのままにせず、その時間、またはその日のうちに解決をして、次の時間に先延ばしにしないようにすること。毎時間の取り組み、課題・宿題の取り組みは積極的に行うこと。				
学習方法 (アドバイス)	原価計算の基本的な考え方や計算方法をしっかりと理解すること。何度も繰り返し問題を解くことで、理解し、より定着する科目である。そのため、諦めず、粘り強く、最後まで取り組むことが大切である。				
課題・補習	週末課題・長期休暇課題を課す場合がある。また、確認テストや考査の成績不振者に対する補習、検定前の講習を実施する。				
試験について	試験は定期試験を4回実施する。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	・学習活動への取り組み …◎ ・課題・提出物の状況 …◎ ・プリント …◎ ・定期試験、検定 …△			
	②思考・判断・表現	・学習活動への取り組み …○ ・課題・提出物の状況 …○ ・プリント …○ ・定期試験、検定 …○			
	③技能	・学習活動への取り組み …○ ・課題・提出物の状況 …△ ・プリント …○ ・定期試験、検定 …◎			
	④知識・理解	・学習活動への取り組み …△ ・課題・提出物の状況 …○ ・プリント …△ ・定期試験、検定 …◎			
備考					